水のふるさとの人々が語る、やまなみ五湖。

水源地域には魅力的な自然や郷土芸能、郷土文化、食文化などがあります。それらを発信、継承しながら地域の魅力をアピールしているのが「里の案内人」です。ここではその方々に、大切な〝水のふるさと〟の恵みをどのように守り、育み、そして次世代へ引き継いでいくかなどの貴重なお話を語っていただきました。

味わいの守りびと

藤野町椎茸生産組合長
黒木 工さん

山と水の恵みの椎茸づくりに幸せと喜びを感じる日々。

山で木を伐り、椎茸を栽培して30年ほどになりますが、おかげさまで栽培している椎茸を表彰していただくなど嬉しいことも多々あります。相模湖周辺は椎茸栽培に適していて、深い味わいや旨味が出るんです。これも自然の恵みですね。

山での作業場は、相模湖や町並みが一望できるとても眺めの良い所にあり、心和みながら仕事ができる幸せを感じます。育てた椎茸の良さ、そして山や水の魅力を知ってもらうために、都市部でのイベントにも出品していますよ。

これからは地元の若い人たちにも、私なりに培ってきた栽培法やノウハウを伝え、自然の恵みの素晴らしさを、後世にもずっと残していけたらと思います。

ホタルの守りびと

城北窯戸工房会長
斎藤 利市さん

水を大切にすることは、環境とホタルを守ること。

昭和30年代まで、相模原市緑区城北地域にはホタルが沢山いたのですが、水の環境の変化で少なくなってしまいました。そこで平成元年から、田の除草剤を控えるなどの保全活動を始めると、徐々にホタルが増え始めたのです。これも地域の住民皆で水を大切にした良い結果です。

そのホタルや水の源流である津久井湖に親しんでほしいという目的で、里の交流祭「城北里山まつり」（毎年6月下旬頃）を始めました。ホタルを見て感動している人たちを目でいると、こちらも感激してしまいます。その温かな気持ちの共有から、水の源流を守らなければという意識と絆が生まれるのです。それを次世代そして未来へと繋げて欲しいと思います。

里山の守りびと

NPO法人里山津久井をまもる会代表
安川 源通さん

身近であり新発見がある、里山の魅力をいつまでも。

Message

自然の豊かさや水の美しさを活用しながら、里山を守っていくことを中心に活動しています。子どもたちを対象として森遊びを体験してもらうのですが、指導するのではなく、子どもたちが自発的に遊び方を楽しく考え出すようにしています。

また専用農園では有機農法による野菜などを栽培し、その内の津久井在来大豆から味噌や豆腐を作る活動もしています。遠方からお見えになる方も多く、リピーターになる方も沢山いますよ。

宮上山の外輪山を源とする道志川はチュービングなどの川遊びも楽しく、何ヶ所かある湧き水は料理の専門家も汲みに来るほどで、津久井の自慢です。その他に、歴史的スポットも点在しているので、何度訪れても新しい発見がきっとありますよ。

工芸の守りびと

芳雅美術工芸代表
米田 博行さん、米田 芳子さん

自然と水を守ることが郷土の工芸を育むことに。

Message

私たちが伝統を築こうとしている『愛川和紙細工』は、平成生まれの新しい工芸です。やまなみグッズに認定され、地元に根ざす活動の中で思うことは、使用する和紙を育んだ愛川町の自然と中津川の清らかな水への感謝です。

宮ヶ瀬湖の周辺には楽しいスポットが点在していますが、湖から流れ出る中津川周辺でも、キャンプやバーベキューなどで気軽に自然と美味に親しむことが出来ます。そうした自然と美しい川を残すため、地元の有志が清掃や草刈をするなど、環境保全にも努めています。郷土の工芸を育んでいくうえでも、自然と水を守ることの大切さを、多くの方々に知ってはしいと思います。

森の守りびと

山北町共和地区代表
井上 正文さん

使命は次世代にも誇れる山づくりと森づくり。

Message

本当の山の在り方、森の姿を地域や下流の人々に発信して、次世代にも誇れる山づくり、森づくりをしていくことが私たちの使命だと思っています。山や森の保水力を高めることにより、良い水も生まれるのですから。

そんな森づくりを進める過程で、丹沢湖や共和地区をもっと知ってもらおうと「こもれび歩道」というものを作りました。

そこで取り組んだのがチェーンソーアートです。それが話題を呼んで、県の主催で大会を開くまでになりました。そういった催し物などを通して、森や水を守り続ける大切さを知ってはしい。水は万人のものです。だからこそ、良い水を子々孫々に伝えていかなければならないと思います。